

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	生物多様性保全事業
事業主体 (連絡先)	松本市 (環境部 環境保全課 環境保全係)
事業区分	(5) 環境保全、景観形成
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,062,796 円 (うち支援金: 796,000 円)

事業内容

- 「啓発事業」
市内在住の小中学生とその保護者を対象にした環境学習会を実施した。
- 「ゴマシジミ保護回復事業」
ゴマシジミの保護回復のため、県の保護回復計画や奈川の地元住民と協働し、食草の保護や密猟パトロール、採取禁止看板の貼替や新規設置などを行った。
- 「生物多様性モニタリング調査業務委託」
生物多様性保全事業の指標とするため、地域戦略のモデル地区から5カ所選定し、年1カ所ずつモニタリング調査をする。今年度は、県の保護回復計画に合わせ奈川地区のゴマシジミを調査した。



【「啓発事業」環境学習会 水生生物観察会の様子】

【目標・ねらい】

- ①自然に触れ合う機会の提供し、生物多様性保全に対する関心を高める
- ②市民との協働
- ③生物多様性保全の実践

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 「啓発事業」→①
4回で延べ79名が参加。
- 「ゴマシジミ保護回復事業」→①、②、③
地元住民が食草保護やパトロールなどに携わった。これは、県の保護回復計画の実践にもなった。
- 「生物多様性モニタリング調査業務委託」→②、③
委託業者に、一般市民を加え調査を実施した。調査に参加することで知識が向上し、環境学習会の講師など活躍の場が広がり、市民へ広げる波及効果が期待できる。判明した課題等はパネルにした。資料は保全活動の参考にするとともに、環境学習会等で活用することで、多くの市民に役立つことが期待される。

※自己評価【B】

【理由】

環境学習会の参加者は荒天で1回中止となり、予定に届かなかったが、参加者からは大変好評이었다。保護回復事業とモニタリング調査は予定通り実施できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

来年度以降も、HP、広報物を通して周知を図りながら事業を実施していく。啓発事業の内容はアンケートを参考に直視し、更に市民が興味を持てるようなものにする。ゴマシジミ保護回復事業は引き続き、市民と協働で実践し、ゴマシジミ頭数の回復を目指す。生物多様性モニタリング調査業務委託は、それぞれのモデル地区の指標となる生物種を選び効果的に実施する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある